（書式２）

＜事務局使用欄＞**受付番号：**　　－

「２０２４年国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学工学部２年　木村　幸斗

①学習成果

まず、私の中国語学習歴と留学経験について述べます。私は、1 回生の頃に第二外国語として中国語(IA・IB)を 1 年間履修しました。その後は、工学部ということもあり、2 回生以降に中国語の授業を履修したり、個人的に中国語を勉強したりすることが無かったため、1 年間のブランクの後に本プログラムに参加しました。また、留学については、大学入学当初から興味があったものの、自身の外国語能力に障壁を感じていたために、なかなか踏み出すことができていませんでした。したがって、今回が初の留学・海外となります。

学習成果としては、本留学によって、中国語と英語のリスニングやスピーキングの能力がとりわけ向上したと考えています。

まず、前者の中国語について、当初は語彙や文法など、1 回生の時に勉強した基本的な事項に関しても忘れているものが多かったため、渡航前の Written Test や Oral Test はかなり苦労しました。基本的な知識を思い出すために、留学が決まってから再度中国語の勉強を始めましたが、留学開始直後は授業内で先生が話す中国語が聞き取れないことも少なくありませんでした。しかし、本プログラムで中国語に触れる機会が増え、能動的に中国語を使うことも多くなったため、留学の終盤では、日常的なレベルの簡単な会話についてはできるようになりました。特に、スピーキングに関しては、約 5 分間の Final Presentation をそれほどの困難なくこなせる程度になりました。

後者の英語については、Spring+の参加者や宿舎の方々などの内、日本語圏以外の方と交流する時や、自身の中国語能力で意思疎通できない時に使うことが多かったです。当初は簡単な英語しか使えませんでしたが、さまざまな方と日常的な会話を交わしたり、議論を重ねたりしているうちに、ある程度の長さの自分の意見を言える程度にまで成長できたと思います。また、多様なバックグラウンドを持つ方々との議論を通して、国際理解への意欲も増しました。さまざまな視点を得るためにも、今後も継続的に留学に参加したいと強く思うようになりました。

②海外での経験

本留学を通して、台湾の文化や中国語への理解が深まっただけでなく、人間力についてもかなり向上したと思います。

台湾は日本と地理的に近いこともあり、生活様式や文化の面でも日本と似ている印象があったのですが、実際に行ってみると、日本と異なる部分がほとんどであると感じました。例えば、台湾ではバスに乗る時に手を挙げて停車してもらう必要があることや、お茶に砂糖が入っていること、浴槽に入る習慣が無いことなどが挙げられます。最初はこのような文化の違いに戸惑うことも多かったですが、徐々に日本とのギャップを楽しみながら順応していくことができるようになりました。また、日本語が主として通じない場所で生活が送れたことも大変貴重な経験となりました。ご飯屋さん一つとってみても、メニューが全て繁体字のみで書かれていた時に、漢字の構成要素から大まかな料理を推測して注文したり、店員さんに簡単な中国語でどのような料理か聞いたりしたことは、日本に居ながらにしてはなかなか経験できないことでした。日本にいる時よりも積極的に、自立して行動することができるようになったと感じます。

以上のように、異国の地での生活を経験したことで、人としても成長することができたと思います。

③プログラム内容

プログラムは平日と休日、前者に関してはさらに午前と午後で大別されます。

まず、平日に関して、午前中は中国語の習熟度をもとに 5 クラス(中国語の学習経験がない方向けのクラス×1、ある方向けのクラス×4)に分かれ、9:00 から 11:50 まで 50 分×3 コマ中国語の授業を受けました。中国語の学

＜事務局使用欄＞**受付番号：** －

習経験がある場合、渡航前にオンラインで行われる Written Test や Oral Test をもとにしてクラスが振り分けられます。ただし、これらのクラスは暫定的なもので、実際に授業を受けてみてクラスを柔軟に変更することが可能となっていました。授業の構成(内容や進行速度、使用言語など)は担当される先生に大きく依存しますが、どのクラスでも中国語のスピーキングとリスニングに重点が置かれていました。参考程度に、私のいたクラスでは、授業中に発言する機会がとても多く、3～4 回程度、与えられたテーマについてスライドを作成してプレゼンを行うこともありました。また、全クラス、プログラム期間中に Midterm Exam と Final Exam、Final Presentation があります。Exam については、授業内で勉強したことについての理解度が測られ、口頭試問が行われるクラスもありました。Final Presentation については、クラスごとに先生から与えられたテーマについて中国語でプレゼンをします。プレゼンの長さは基本的に一人あたり５分程度でした。クラスによっては日々の授業で出される課題や小テストの勉強などの合間を縫うなどしてプレゼンを準備する必要があるため、少々大変に感じるかもしれません。平日の午後は、Cultural Activity や Exploring Taiwan Lecture、Cultural Visit、Tutor Station など、日によって異なるプログラムに参加します。これらについては、使用言語は英語と中国語です。特に、一つ目から三つ目は Spring+のさまざまなコースが参加するプログラムになるため、Chinese Language & Culture 以外の参加者とも交流できる貴重な機会となります。それぞれのプログラムの大まかな内容は以下の通りです。

・Cultural Activity：さまざまな DIY を通して台湾の文化を学ぶプログラムです。今年は Hakka & Oil Umbrella Painting や Lacquered Fan Making、Food DIY: Taro Ball and Sweet Potato Ball を行いました。

・Exploring Taiwan Lecture：台湾の伝統や文化について講義形式で学ぶプログラムです。授業を 2 時間受けた後、30 分程度でレポート(中国語または英語、各設問に 300～500 words で答える形式)を書きます。今年は後述する Cultural Visit に関連する授業もありました。

・Cultural Visit：フィールドワークを通して台湾の文化を学ぶプログラムです。午後から半日かけて行われます。今年は Guandu Nature Park や Wen Sun Farm に行きました。お茶の picking や brewing をはじめとして、こちらでもさまざまな DIY を体験しました。

・Tutor Station：NTU の学生チューターさんとの交流を通して中国語をアクティブに使うプログラムです。ご飯やお店に行ったり、ゲームをしたり、宿題をしたりと、各クラスを担当するチューターの方々によって行うことはさまざまです。実践的な中国語が学べる貴重な機会でした。

これら以外にも、One Day Trip という１日かけて台湾のさまざまな場所に行って、文化や伝統、自然を学ぶアクティビティがあります。どのプログラムもすごく充実したものとなっていました。

休日については基本的に自由に過ごすことができます。九份や台中などの遠方へ行ったり、授業内で提示された課題をしたりしました。

④進路への影響

現状、進学先や専攻の変更など、進路への大きな影響はないものの、今回のプログラムを通して、他国の大学で学ぶということに対して今まで以上に興味が増しました。また、さまざまなバックグラウンドを持つ方々と交流することの楽しさや大切さについても学べたため、今後も留学などには積極的に参加していきたいと強く思うようになりました。